

新潟米 マンスリーレポート

(令和6年1月号)

《今月の特集①》

国の令和6年度予算について

令和5年12月22日に、国の令和6年度予算が閣議決定されました。

水田活用直接の支払交付金等は3,015億円で当初予算では前年度に比べて35億円の減額となりますが、コメ新市場開拓等促進事業については、前年度と同額となっています。

また、令和5年度補正予算で畑地化の支援や畑作物産地形成促進事業も実施されるので、これらを有効に活用して令和6年産の需要に応じた生産に取り組みましょう。

1 水田活用の直接支払交付金等

【令和6年度予算概算決定額 301,500 (305,000) 百万円】

<対策のポイント>

食料自給率・自給力の向上に資する麦、大豆、米粉用米等の戦略作物の本作化とともに、地域の特色をいかした魅力的な産地づくり、産地と実需者との連携に基づいた低コスト生産の取組、畑地化による高収益作物等の定着等を支援します。

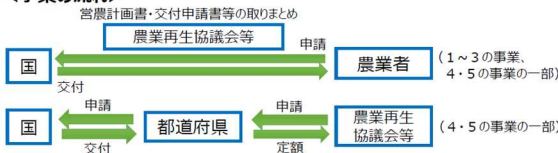
<政策目標>

- 麦・大豆等の作付面積を拡大(麦30.7万ha、大豆17万ha、飼料用米9.7万ha [令和12年度まで])
- 実需者との結びつきの下で、需要に応じた生産を行う産地の育成・強化
- 飼料用米、米粉用米の生産を拡大(飼料用米:70万t、米粉用米:13万t [令和12年度まで])

<事業の内容>

- 戦略作物助成**
水田を活用して、麦、大豆、飼料作物、WCS用稲、加工用米、飼料用米、米粉用米を生産する農業者を支援します。
- 産地交付金**
「水田収益力強化ビジョン」に基づく、地域の特色をいかした魅力的な産地づくりに向けた取組を支援します。
- 都道府県連携型助成**
都道府県が転換作物を生産する農業者を独自に支援する場合に、農業者ごとの前年度からの転換拡大面積に応じて、都道府県の支援単価と同額(上限:0.5万円/10a)で国が追加的に支援します。
- 畑地化促進助成**
水田を畑地化し、高収益作物やその他の畑作物の定着を図る取組等を支援します。
- コメ新市場開拓等促進事業 11,000 (11,000) 百万円**
産地と実需者との連携の下、新市場開拓用米等の低コスト生産等の取組を行う農業者を支援します。※7
※7 予算の範囲内で、助成対象となる地域農業再生協議会を決定

<事業の流れ>



<事業イメージ>

戦略作物助成

対象作物	交付単価
麦、大豆、飼料作物	3.5万円/10a※1
WCS用稲	8万円/10a
加工用米	2万円/10a
飼料用米、米粉用米	収量に応じ、5.5万円~10.5万円/10a※2

※1: 多年生牧草について、収穫のみを行う年は1万円/10a

※2: 飼料用米の一般品種について、令和6年度については標準単価7.5万円/10a(5.5~9.5万円/10a)

今後、標準単価を段階的に引き下げ、令和8年度において標準単価6.5万円/10a(5.5~7.5万円/10a)とする

産地交付金



○ 当年産の以下の取組に応じて資金枠を追加配分

取組内容	配分単価
そば・なたね、新市場開拓用米、地力増進作物の作付け(基幹作物のみ)	2万円/10a
新市場開拓用米の複数年契約※4(3年以上の新規契約を対象に令和6年度に配分)	1万円/10a

※3: 作付転換の実績や計画等に基づき配分

※4: コメ新市場開拓等促進事業で採択された者が対象

畑地化促進助成 (令和5年度補正予算と併せて実施)

- 畑地化支援※5: 14.0万円/10a
- 定着促進支援※5 (①とセット): 2万円(3万円※6)/10a×5年間
または10万円(15万円※6)/10a(一括)※6: 加工・業務用野菜等の場合
- 産地づくり体制構築等支援
- 子実用とうもろこし支援(1万円/10a)

※5: 対象作物は、畑作物(麦、大豆、飼料作物(牧草等)、子実用とうもろこし、そば等)及び高収益作物(野菜、果樹、花き等)

【お問い合わせ先】農産局企画課(03-3597-0191)

2 コメ新市場開拓等促進事業

【令和6年度予算概算決定額 11,000 (11,000) 百万円】

<対策のポイント>

需要拡大が期待される作物を生産する農業へと転換するため、実需者との結び付きの下で、新市場開拓用米、加工用米、米粉用米（パン・めん用の専用品種）の低コスト生産等に取り組む生産者を支援します。

<事業目標>

- 実需者との結び付きの下で、需要に応じた生産を行う産地の育成・強化
- 米粉用米の生産を拡大（米粉用米13万t〔令和12年度まで〕）

<事業の内容>

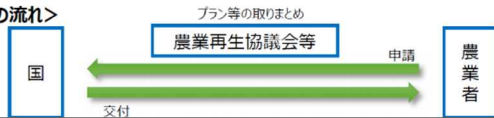
1. 実需者ニーズに応えるための低コスト生産等の取組支援
11,000 (11,000) 百万円
 産地・実需協働プランに参画する生産者が、実需者ニーズに対応するための低コスト生産等の技術導入を行う場合に、取組面積に応じて支援します。

- ① 対象作物：令和6年産の新市場開拓用米、加工用米、米粉用米（パン・めん用の専用品種）
- ② 交付単価：新市場開拓用米 4万円/10a
加工用米 3万円/10a
米粉用米（パン・めん用の専用品種） 9万円/10a
- ③ 採択基準：取組面積等の評価基準（ポイント）に基づき、地域協議会単位で、予算の範囲内で採択

<留意事項>

- ※1 令和6年産の基幹作が対象です。
- ※2 農業者等が実需者と販売契約を締結する又はその計画を有していることが必要です。
- ※3 本支援の対象となった面積は、令和6年度水田活用の直接支払交付金の戦略作物助成（加工用米、米粉用米）及び都道府県に対する産地交付金の取組に応じた追加配分（新市場開拓用米）の対象面積から除きます。
- ※4 予算額のうち、30百万円を農業再生協議会等の事務費として計上しています。

<事業の流れ>



<事業イメージ>

【産地・実需協働プラン】

- ✓ 産地と実需者が連携し、新市場開拓用米、加工用米、米粉用米について、需要拡大のために必要な生産対策や需要の創出・拡大に係る取組内容、目標等を盛り込んだ計画



実需者ニーズに応えるための低コスト生産等の技術導入



【例】スマート農業機器の活用



直播栽培



土壌診断に基づく施肥

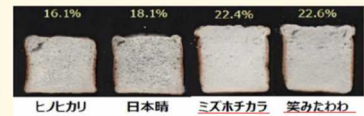
米粉用米（パン・めん用の専用品種）の例

（パン用の専用品種）

- ・ミスホチカラ
- ・笑みたわわ 等

（めん用の専用品種）

- ・亜細亜（あじあ）のかおり
- ・ふくのこ 等



【お問い合わせ先】 農産局企画課 (03-3597-0191)

※ 農林水産省ホームページに、この他の事業についても掲載されています。
 (<https://www.maff.go.jp/j/budget/r6kettei.html>)

《今月の特集②》

11月時点の民間在庫について ～新潟米の民間在庫は前年より増加しています～

農林水産省が公表した11月末時点の民間在庫量は、米主産県は軒並み在庫を減らし、全国の民間在庫量は前年同月を26万トン下回っています。

一方で、令和5年産の新潟米は作柄が「やや不良」であったため、集荷量は前年より少ないものの、1年古米（4年産米）の在庫が多く、民間在庫量は前年同月を5千トン上回っている状況です。

このような状況の中では、令和6年産の主食用米は決して増産できる状況ではないので、県の生産目標に即して、需要に応じた生産に取り組んでください。

【民間在庫の状況（各年11月時点）】

（単位：万玄米トン）

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	前年差
全国	315	344	351	330	304	▲ 26
北海道	31.0	38.5	40.9	33.1	28.4	▲ 4.7
青森	14.9	16.9	17.3	14.9	14.7	▲ 0.2
岩手	13.9	15.6	14.9	13.6	12.3	▲ 1.2
宮城	15.4	18.2	21.4	18.2	16.4	▲ 1.9
秋田	28.4	30.1	30.1	26.7	23.2	▲ 3.6
山形	18.8	22.3	21.8	18.8	18.1	▲ 0.7
福島	23.4	22.2	19.4	17.7	18.0	0.3
茨城	12.1	14.6	15.1	14.1	13.5	▲ 0.6
栃木	15.8	18.3	19.1	17.1	15.3	▲ 1.8
千葉	8.9	9.3	9.6	7.9	7.2	▲ 0.7
新潟	30.6	32.8	29.4	29.4	29.9	0.5
富山	9.1	10.5	10.5	9.8	9.6	▲ 0.2

【令和6年産の主食用米の生産目標】

	令和5年産 実績	令和6年産 県生産目標	
数量	52.5万トン※	54.6万トン	
面積	100,600 ha	面積換算 99,900ha	前年実績差 ▲700 ha 〔 令和5年産の生産目標と 同水準まで作付転換が必要 〕

※ 5年産は規格外が例年より多く発生しているため、特例的に規格外も含めて生産量を算出

新潟米の販売状況

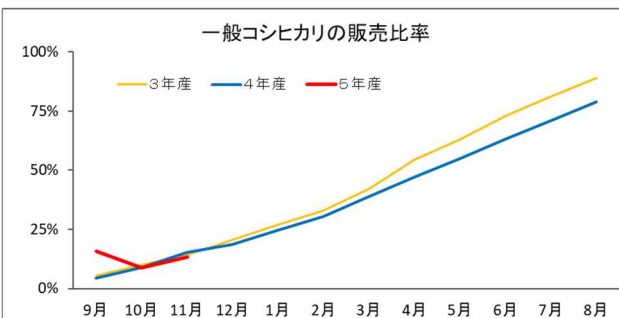
概況

全国の民間在庫は前年同月を26万トン下回っているが、新潟米の民間在庫は前年を5千トン上回っている。

販売比率

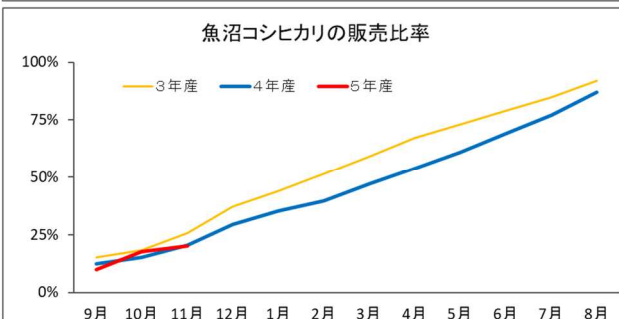
(1) 一般コシヒカリ

11月末現在の5年産一般コシヒカリの販売比率は13%となっており、4年産比2ポイント減、3年産比1ポイント減となっている。



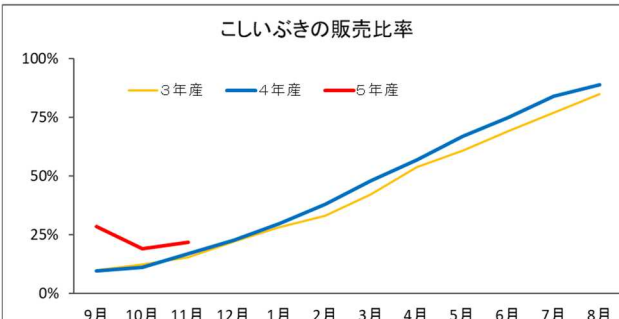
(2) 魚沼コシヒカリ

11月末現在の5年産魚沼コシヒカリの販売比率は20%となっており、4年産と同等、3年産比6ポイント減となっている。



(3) こしいぶき

11月末現在の5年産こしいぶきの販売比率は22%となっており、4年産比5ポイント増、3年産比6ポイント増となっている。



販売比率の推移

産地・年産		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
一般コシヒカリ	3年産	6%	10%	14%	21%	27%	33%	42%	55%	63%	73%	81%	89%
	4年産	5%	9%	15%	19%	25%	31%	39%	47%	55%	63%	71%	79%
	5年産	16%	9%	13%									
魚沼コシヒカリ	3年産	15%	18%	26%	37%	44%	51%	59%	67%	73%	79%	85%	92%
	4年産	12%	15%	20%	29%	35%	40%	47%	54%	61%	69%	77%	87%
	5年産	10%	18%	20%									
佐渡コシヒカリ	3年産	4%	15%	20%	27%	36%	41%	50%	58%	65%	73%	80%	87%
	4年産	5%	13%	18%	23%	32%	37%	46%	52%	59%	68%	73%	77%
	5年産	5%	15%	20%									
岩船コシヒカリ	3年産	8%	11%	18%	27%	33%	40%	48%	56%	61%	70%	75%	87%
	4年産	11%	11%	17%	24%	30%	36%	45%	55%	63%	73%	80%	88%
	5年産	10%	13%	20%									
こしいぶき	3年産	10%	13%	16%	22%	28%	33%	42%	54%	61%	69%	77%	85%
	4年産	10%	11%	17%	23%	30%	38%	48%	57%	67%	75%	84%	89%
	5年産	29%	19%	22%									

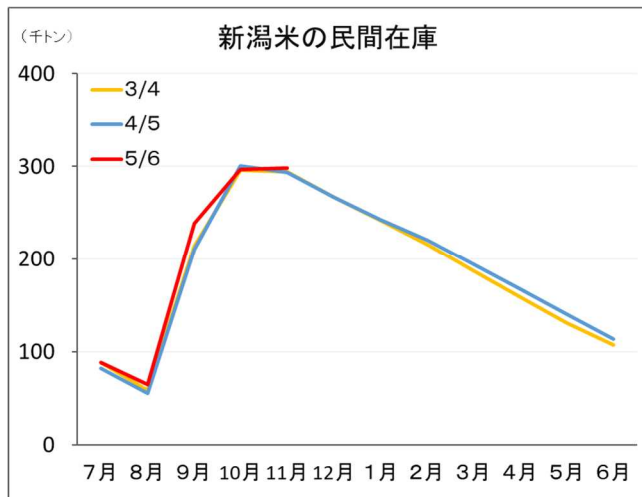
資料 農林水産省「米に関するマンスリーレポート」

(注) 各年産の9月から12月は、販売比率非公表のため、直近月の集荷量で除して算出。

在庫状況

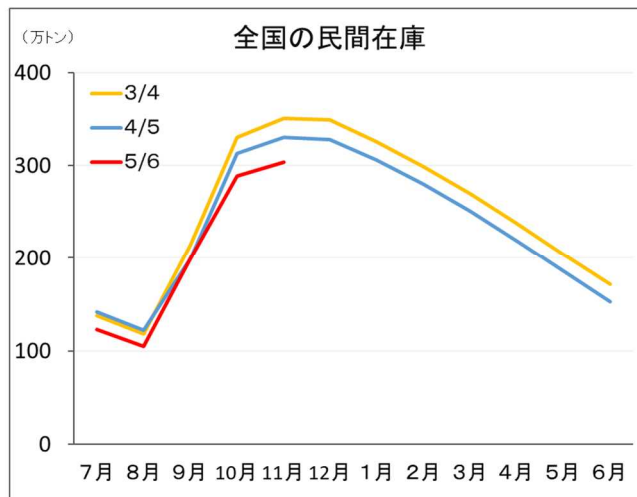
(1)新潟米

11月末現在の新潟米の民間在庫(うるち米)は、前年同月から5千トン増、前々年同月から5千トン増の299千トンとなった。



(2)全国

11月末現在の全国の民間在庫(うるち米)は、前年同月から26万トン減、前々年同月から47万トン減の304万トンとなった。



民間在庫の推移(うるち米)

(単位:新潟米は千玄米トン、全国は万玄米トン)

		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
新潟米	3/4	88	58	214	296	294	267	241	216	187	158	131	107
	3年産米	0	1	175	266	268	245	223	200	174	147	121	98
	1年古米(2年産)	84	54	35	28	24	20	17	14	12	11	10	8
	4/5	82	55	210	301	294	267	243	220	194	167	140	114
	4年産米		1	177	274	272	250	229	209	184	158	132	107
	1年古米(3年産)	74	48	28	23	19	16	13	11	9	9	7	6
全国	5/6	88	65	239	297	299							
	5年産米		2	195	260	266							
	1年古米(4年産)	83	59	40	33	29							
	3/4	138	118	214	330	351	349	326	299	270	238	204	172
	3年産米	0	11	129	253	285	293	278	258	236	208	179	149
	1年古米(2年産)	129	99	77	68	57	47	39	33	28	23	19	17
全国	4/5	142	122	199	313	330	328	306	280	251	219	186	153
	4年産米	1	12	112	236	263	273	259	240	217	191	163	134
	1年古米(3年産)	124	94	71	59	49	40	33	26	21	17	14	11
	5/6	123	105	199	289	304							
	5年産米	1	14	132	232	255							
	1年古米(4年産)	106	78	55	45	36							

資料: 農林水産省「米に関するマンスリーレポート」

注: 1 出荷段階及び販売段階における水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米(醸造用玄米を含む。)の月末在庫量(玄米換算)の値である。

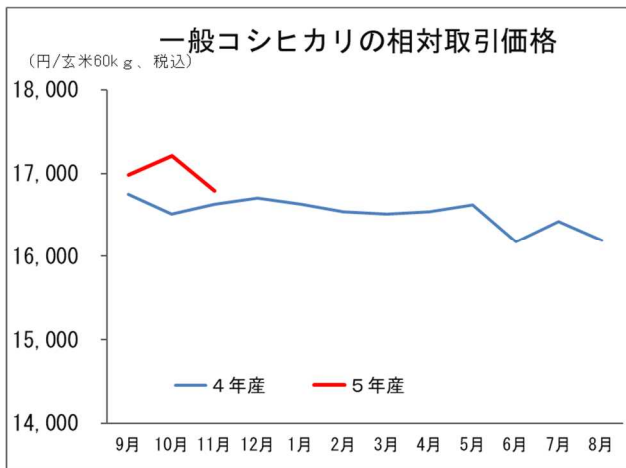
2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体(年間の玄米仕入数量が5,000トン以上)、出荷業者(年間の玄米仕入量が500トン以上)である。

3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者(年間の玄米仕入量が4,000トン以上)である。

相対取引価格

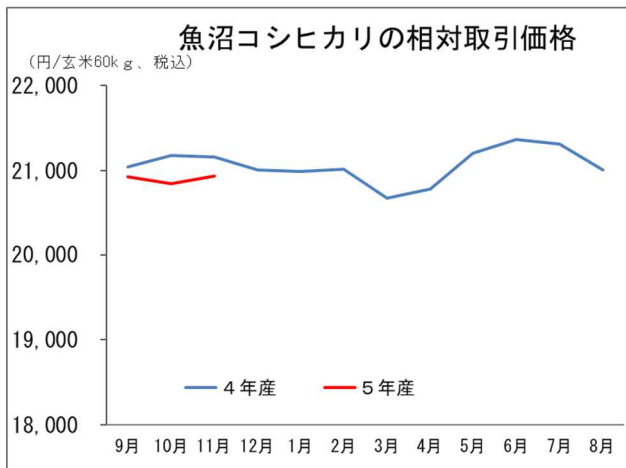
(1)一般コシヒカリ

11月の一般コシヒカリの相対取引価格(1等)は、前年同月に比べ156円上回り、16,792円(玄米60kg、税込)となった。



(2)魚沼コシヒカリ

11月の魚沼コシヒカリの相対取引価格(1等)は、前年同月に比べ222円下回り、20,939円(玄米60kg、税込)となった。



相対取引価格の推移

(単位:円)

		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
一般コシヒカリ	3年産	15,820	15,596	15,864	15,702	15,732	15,426	15,624	15,300	15,343	15,265	15,182	15,315
	4年産	16,751	16,510	16,636	16,708	16,634	16,542	16,510	16,542	16,622	16,179	16,418	16,196
	5年産	16,983	17,208	16,792									
魚沼コシヒカリ	3年産	20,301	20,071	20,334	20,555	20,620	20,655	20,535	20,460	20,644	20,659	20,704	20,770
	4年産	21,047	21,179	21,161	21,006	20,988	21,020	20,680	20,786	21,205	21,365	21,317	21,007
	5年産	20,929	20,851	20,939									
佐渡コシヒカリ	3年産	16,194	16,190	16,216	16,555	16,204	16,129	16,070	16,620	16,527	-	-	-
	4年産	17,182	17,215	17,245	17,172	17,261	16,825	16,971	-	16,778	-	-	-
	5年産	17,337	17,507	17,703									
岩船コシヒカリ	3年産	16,198	16,161	16,142	16,184	16,179	15,786	15,980	-	-	-	-	-
	4年産	17,144	16,893	17,284	16,850	17,179	16,775	17,008	-	-	-	-	14,773
	5年産	17,114	17,432	17,389									
こしいぶき	3年産	12,794	12,781	13,313	12,648	12,691	12,380	12,494	11,841	12,294	12,097	12,006	12,034
	4年産	13,405	13,139	13,353	13,389	13,462	13,249	13,544	13,041	13,441	12,979	12,899	12,934
	5年産	14,696	14,771	14,623									

資料 農林水産省「米に関するマンスリーレポート」

(注)「-」は、当該月の相対取引契約がなかったもの、または、当該月の相対取引数量が100トン未満であり、価格の公表が行われないもの。

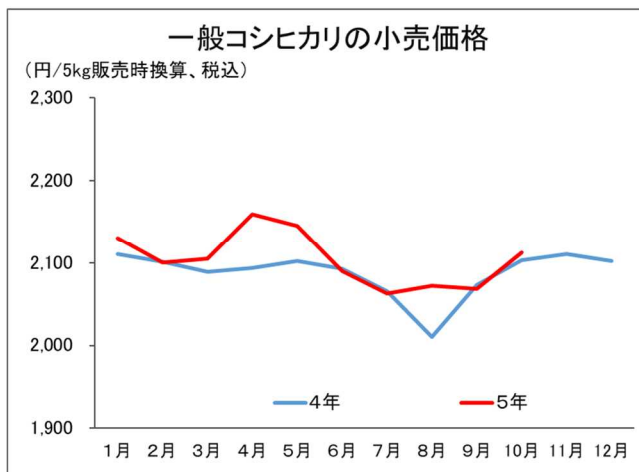
※ 相対取引価格は出荷業者と卸売業者との間で数量と価格が決定された主食用米の相対取引契約の価格(運賃、包装代、消費税を含む1等米の価格)を加重平均したものです。

小売価格

(POSデータ)

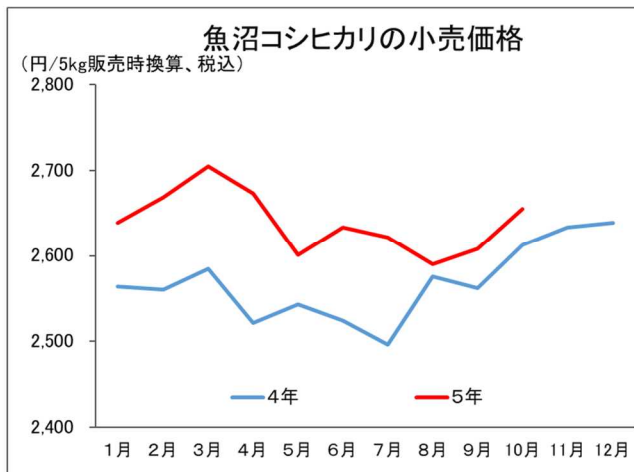
(1)一般コシヒカリ

10月の一般コシヒカリの小売価格は、前年同月に比べ9円上回り、2,112円(5kg袋販売時換算、税込)となった。



(2)魚沼コシヒカリ

10月の魚沼コシヒカリの小売価格は、前年同月に比べ40円上回り、2,655円(5kg袋販売時換算、税込)となった。



小売価格(POSデータ)の推移

(単位:円/5kg袋販売時換算(消費税込み))

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
一般コシヒカリ	3年	2,136	2,142	2,119	2,124	2,063	2,143	2,115	2,182	2,158	2,101	2,123	2,091
	4年	2,111	2,101	2,089	2,094	2,102	2,093	2,066	2,010	2,073	2,103	2,111	2,101
	5年	2,130	2,100	2,105	2,159	2,145	2,090	2,063	2,072	2,068	2,112		
魚沼コシヒカリ	3年	2,663	2,679	2,672	2,656	2,621	2,526	2,547	2,594	2,579	2,616	2,660	2,528
	4年	2,564	2,560	2,585	2,521	2,543	2,524	2,496	2,576	2,562	2,615	2,634	2,639
	5年	2,639	2,669	2,705	2,673	2,601	2,633	2,622	2,590	2,608	2,655		
佐渡コシヒカリ	3年	2,274	2,267	2,285	2,280	2,254	2,242	2,329	2,289	2,313	2,147	2,194	2,139
	4年	2,196	2,150	2,145	2,149	2,206	2,133	2,201	2,114	2,149	2,168	2,192	2,179
	5年	2,164	2,137	2,206	2,212	2,175	2,133	2,186	2,136	2,273	2,144		
こしいぶき	3年	1,816	1,811	1,818	1,776	1,784	1,846	1,820	1,741	1,743	1,703	1,699	1,676
	4年	1,665	1,618	1,653	1,472	1,465	1,483	1,455	1,467	1,609	1,655	1,702	1,590
	5年	1,584	1,521	1,536	1,682	1,754	1,684	1,699	1,715	1,759	1,926		

資料:農林水産省「米に関するマンスリーレポート」

編集後記 ～非常食には米を～

こんにちは。1月1日の大地震は衝撃的な災害でした。

避難所の様子をニュースなどで見っていますが、食料などの物資が足りないという声が多いようです。

今回の地震では大きな被害はなかったという場合でも、自分で備蓄する非常食への関心が出てきた方も多いのではないのでしょうか。

災害時には炭水化物の確保・摂取が重要であり、

米はその筆頭です。パックごはん、おもち、水だけで

食べられるアルファ米など、様々な種類を購入しておき、

日常に近い食事を用意できるよう備えられるといいですね。



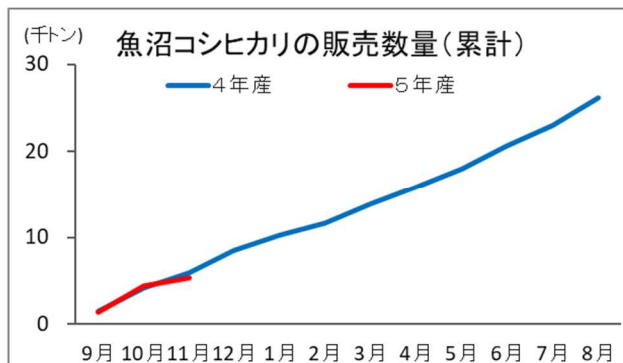
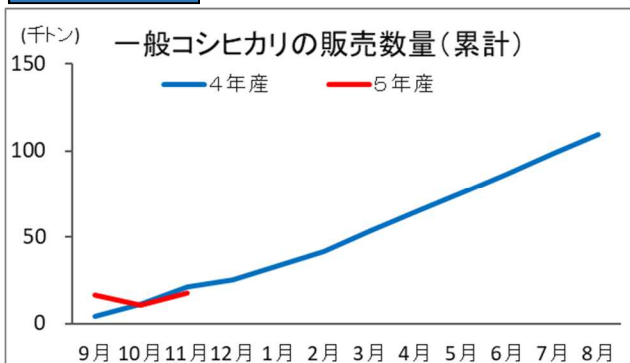
発行元:新潟県農林水産部農産園芸課

TEL:025-280-5295

URL:https://www.niigatamai.info

資料編

販売状況



販売数量(累計)の推移

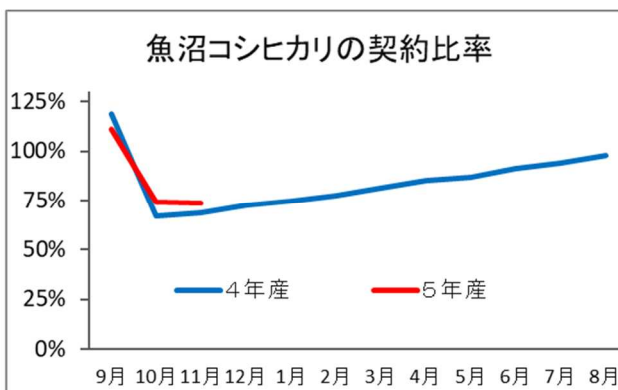
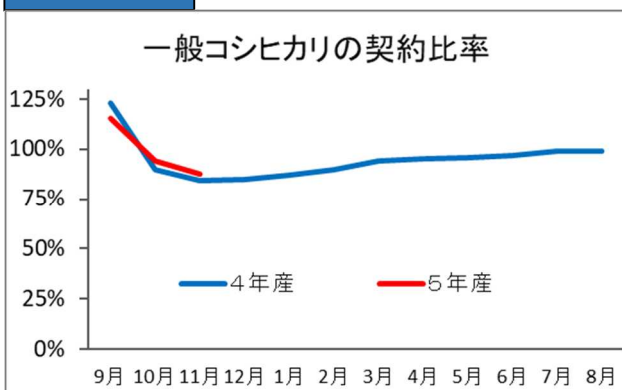
(玄米千トン)

産地・年産	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	
一般コシヒカリ	3年産	4.3	11.7	17.5	25.7	33.6	41.2	52.7	74.0	86.1	100.0	110.8	121.7
	4年産	4.0	11.1	21.2	25.3	33.3	41.9	53.4	64.6	75.5	86.7	98.0	109.5
	5年産	16.5	10.8	17.6									
魚沼コシヒカリ	3年産	1.9	5.0	7.4	10.7	12.7	14.9	17.2	19.6	21.5	23.6	25.5	27.3
	4年産	1.5	4.2	5.9	8.5	10.2	11.6	13.9	15.9	18.0	20.6	23.0	26.1
	5年産	1.4	4.4	5.3									
佐渡コシヒカリ	3年産	0.2	1.7	2.7	3.7	5.0	5.7	6.9	8.0	9.0	10.1	11.1	12.1
	4年産	0.3	1.6	2.6	3.4	4.6	5.3	6.7	7.6	8.6	9.9	10.7	11.2
	5年産	0.3	1.5	2.4									
岩船コシヒカリ	3年産	0.3	1.2	2.0	3.0	3.6	4.4	5.2	6.1	6.7	7.7	8.3	9.6
	4年産	0.3	1.1	1.7	2.5	3.1	3.7	4.7	5.7	6.5	7.5	8.3	9.3
	5年産	0.4	1.3	2.0									
こしいぶき	3年産	2.6	4.2	5.9	8.5	11.0	13.0	16.6	22.7	25.8	29.5	32.9	36.1
	4年産	2.3	3.9	6.1	8.0	10.5	14.4	17.9	21.5	25.2	28.3	31.7	33.6
	5年産	8.1	5.5	7.3									

(資料)農林水産省「米に関するマンスリーレポート」

(注)年度毎に調査対象者が異なる可能性がある

契約状況



契約比率の推移

		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
一般コシヒカリ	3年産	108%	77%	73%	77%	79%	88%	91%	94%	97%	98%	99%	100%
	4年産	123%	90%	85%	85%	87%	90%	94%	95%	96%	97%	99%	99%
	5年産	115%	94%	88%									
魚沼コシヒカリ	3年産	126%	70%	72%	76%	79%	82%	84%	87%	90%	93%	95%	98%
	4年産	119%	67%	69%	72%	75%	77%	81%	85%	87%	91%	94%	98%
	5年産	111%	74%	73%									
佐渡コシヒカリ	3年産	271%	106%	89%	91%	91%	94%	99%	99%	99%	99%	100%	100%
	4年産	227%	105%	89%	90%	94%	95%	98%	98%	100%	100%	100%	100%
	5年産	212%	126%	104%									
岩船コシヒカリ	3年産	268%	90%	90%	90%	91%	91%	101%	102%	102%	102%	100%	100%
	4年産	367%	97%	96%	96%	99%	99%	99%	99%	100%	101%	101%	100%
	5年産	248%	98%	100%									
こしいぶき	3年産	103%	82%	73%	76%	78%	84%	91%	97%	97%	97%	99%	99%
	4年産	113%	81%	82%	82%	84%	86%	97%	98%	98%	99%	99%	99%
	5年産	106%	92%	80%									

資料 農林水産省「米に関するマンスリーレポート」

(注)各年産の9月から12月は、契約比率未公表のため、直近月の集荷量で除して算出。